

# ワクチンと検診で 子宮頸がん予防を

## 出水で講演会、体験談も



ワクチン接種と検診を呼びかける小  
林裕明教授  
|| 出水市文化町

「予防できる子宮頸がん」と題した講演会が16日、出水市文化町であった。市民ら約150人に、鹿児島大学医学部産科婦人科の小林裕明教授は、原因となるヒトパピローマウイルス（HPV）の感染を防ぐワクチン接種と検診受診の重要性を訴えた。

市と医薬品卸のアステム  
が、頸がんやワクチンについて正しく理解してもらおうと開いた。小林教授はHPVの特徴やワクチンの意義などを説明。出産年齢のピークと発症年齢のピークが重なる現状や、国内で年間約3千人が亡くなる背景には「子宮を失う女性が何倍もいることを知ってほしい」と伝えた。

定期接種は小学6年～高校1年相当の女子への2、4価ワクチンに加え、2023年4月から9価ワクチンも対象となった。国の積極的勧奨が中止された期間などに接種しなかった1997～2007年度生まれの女性も、25年3月まで公費で受けられる。9価は年齢に応じ2、3回、間隔を空けて打ち「1回目は9月中に」と勧めた。20歳からの定期的な検診も呼びかけた。

頸がんと流産を経験したフリーアナウンサー・柳佐知さんが小林教授と対談。亡くしたわが子への思いをつづった手記を紹介し「頸がんの正しい情報と知識を持ち、自身、家族、友人、パートナーを守ってほしい」と述べた。(清水裕貴)